

宙に浮くコンベンション・ツタヤ!

“台湾から観光客を誘致!”と市長自らのトップセールス。

帰国直後に、ホテル・グラマシィの営業縮小の発表。特に宴会、催事をやめるとのこと。年1000組を超える集いの場が無くなる。

コンベンションの場がまた消えていく。

<せめて市民館を残しておけば>

年間15万人の利用があり、文化イベント活動の一大拠点だった市民館を解体。その存続を願う1万4千人の署名に対して、市長は議会(平成25年10月30日)で「ホテルもある」からと言われた。

解体理由に「新庁舎建設のための資材置き場が必要だから」とも。



アレッ! 資材置き場は? 駐車場へ

地権者負担、地元商社が建設費を負担する
づくり会社型の床保有法人が建物の取得を行う
想定とします。

第二街区

駅前棟

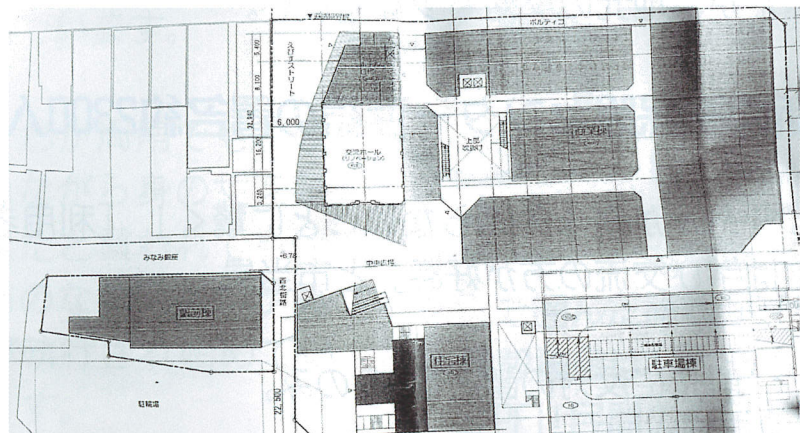
ホテル

- 延べ床面積 1,250 m²前後
- 階数 7階前後
- アップグレードの味のあるホテルを想定します。
- 客室数は40室前後でコンパクトで使いやすい規模で構成します。
- 建物は保留床として処分することを想定します。

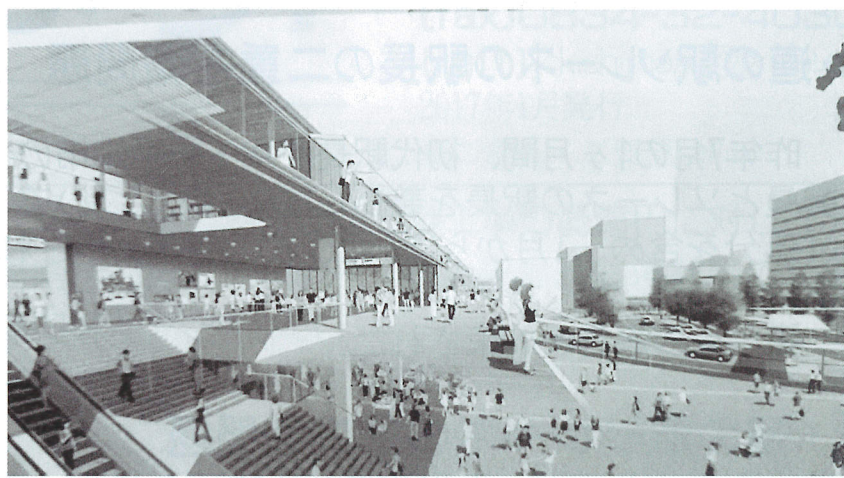
ホール

- 延べ床面積 約300 m²
- 山口銀行の空間を活かし、交流空間として、まちの活性化の中核を担うスペースとします。
- 共用空間としますが、運営管理法人が運営を受託する形を想定します。

市が関与していない? 駅前計画の計画書&設計図



駅ビル・ツタヤに大盤振る舞い



毎年約1.6億円の指定管理料が駅ビル・ツタヤ図書館に。加えて、いままでに判明分43.5億円。

その内訳、内装費6億円?、ダミー本(表紙だけの張りぼて体裁本)、6万冊の図書購入に2億円、セキュリティ・システム3,300万円等々。

なぜ市はここまでツタヤに便宜を図るのか? いまや「駅ビル」でなく「ツタヤビル」と言われることになる。

「ポイントカードの導入も同じこと? 個人情報の拡散にしっかりした歯止めがかかっていると言えるのか?」12月議会でも疑問の声があがる。

さらに、ツタヤ図書館は商店街の活性化に資するとある。「年間120万人?の利用者を見込む」と市は発表しているが、その図書館利用者の商店街への回流がはっきりしない。

それなら「駅ビルを3階建てから4階建てに上げてホテルやホールの併設は?」との議員からの提案にも一考の価値がありそうだが、かわりに市長は「民間でホテル建設の動きもあるやに聞く」からとポロリ。

← <20階・駅前マンション?>

なるほど駅前の20階建てマンション計画がささやかれている。ホールもホテルも入った設計図が出回っている。

それなら市が積極的に応援してもいいはずだが、市当局は「市の援助は考えていない。関与せず」という。地権者は「市がやるから」と説明を受けているとのこと?

駅周辺の整備事業に130億円という数字が出ている。中心市街地の活性化を声高に叫ぶなら、民間の力だけでなく、キチンとした市の関与と市民に対する説明が求められるのではないかと?